

第1章 金正恩時代の国内政治について

平井 久志

はじめに

金正日総書記が2011年12月17日に死亡し、金正恩氏の時代が始まった。

金正日総書記は2008年8月に脳卒中で健康悪化に陥った。金正日総書記の健康悪化は当然に、その後継者が誰になるのかという関心事に連動した。金正日総書記はその後、一定程度、健康を回復した。その中で、金正恩氏が後継者になることは2009年初めから兆候が見え始め、2010年9月28日に開催された朝鮮労働党第3回代表者会で、金正恩氏が党中央軍事委員会副委員長に就任したことで事実上、確定した。しかし、金正日総書記から金正恩党中央軍事委副委員長への権力継承がどのような形で推移するかは不透明であった。

金正日総書記が健康に不安を抱え、その死亡はそう遠くはないという見方がある一方で、それがいつ来るのかという点では予測は不可能であった。

北朝鮮のメディアは2011年12月19日正午に「特別放送」を行い、金正日総書記が同17日午前8時半に死亡したと発表した。党中央委員会、党中央軍事委員会、国防委員会、最高人民委員会常務委員会、内閣の北朝鮮の権力5機関は「訃告」¹を発表し「わが革命の陣頭には主体革命偉業の偉大な継承者であり、わが党と軍隊と人民の卓越した領導者である金正恩同志が立っている」とし、金正恩氏が権力を継承することを強く示唆した。「訃告」とともに「医学的結論書」²が発表され、232人で構成される「国家葬儀委員会」³の名簿が公開された。名簿のトップは金正恩氏であり、ここでも金正恩氏が後継者であることが強く示された。

近い将来に来るであろう「金正恩時代」は予想されていたが、2011年12月17日の金正日総書記の死亡は突然に訪れたものであるだけに「金正恩時代」がどのようなものになるかについての予見は必ずしも容易ではなかった。

北朝鮮は最高指導者を「首領」とし、北朝鮮という国を社会政治的生命体とする独特のイデオロギーを持った国である。最高指導者の交代は北朝鮮の各方面でも「変化」を生み出すことは当然でもあるが、金正恩後継政権は世襲による権力継承であるだけに金正日総書記の敷いた路線の「継承」を免れないという側面も持つ。

本稿では2011年12月から現在（2013年2月15日）までの金正恩政権の1年余の国内

政治での流れを見ながら、金正恩政権の「継承」と「変化」の両面を検証したい。

1. 第4回党代表者会までの歩み

(1) 金正日総書記死亡時までの状況

金正日総書記の2012年12月17日の死亡に伴い、19日には232人からなる国家葬儀委員会の名簿が発表になった。この葬儀委員会の名簿はほぼこの時期の北朝鮮の政治序列を示すものであった。そして、その序列は2010年9月の第3回党代表者会で選出された党政治局、党中央委員、党中央委員候補の序列順に基づくものであった。

第3回党代表者会で党中央委員、党中央委員候補に選出された者の中で、金正日総書記の死亡までに趙明録軍総政治局長が2010年11月6日に、朴正順党組織指導部第1副部長（政治局員候補、党中央委員）が2011年1月22日にそれぞれ死亡した。

金正日総書記を含めて3人の死亡者以外で党中央委員でありながら葬儀委員会名簿に入っていないのは以下の6人であった。

▽朱霜成（人民保安部長）＝朝鮮中央通信は2011年3月16日に国防委員会決定を報じ「人民保安部長、朱霜成が身病関係（病気）のため解任された」と報道⁴。

▽洪石亨（党書記）＝朝鮮中央通信は2011年6月6日に、党政治局拡大会議が同日に開催されたことを報じる中で「会議では洪石亨同志が別の職務に転任することと関連して、彼を党中央委員会秘書局から召還した」と報道⁵。

▽李熙憲（金策製鉄連合企業所支配人）

▽朴寿吉（副首相兼財政相）

▽全珍秀（平壤市衛戍司令官）

▽鄭鎬均（大将）

さらに党中央委員候補の中で金正日総書記の葬儀委員会の名簿に入っていないのは以下の6人であった。

▽金格植（元軍総参謀長、大将）

▽盧敬俊（中將 職責不明）

▽柳京（上將 国家安全保衛部副部長）＝2011年1月ごろ失脚、銃殺説も。2002年の小泉純一郎首相訪朝を前に行われた日朝協議で田中均アジア大洋州局長（当時）のカウンターパートだった「ミスターX」とみられている⁶。

▽朴利淳（職責不明）

▽崔基龍（慈江道人民委員会委員長）

▽韓興彪（咸鏡北道人民委員会委員長）

このように2010年9月の第3回党代表者会から金正日総書記が亡くなった2011年12月というわずか1年余の間ではあるが、北朝鮮が金正恩後継体制への準備をする中で党中央委員から6人、中央委員候補から6人が金正日総書記の葬儀委員会名簿から姿を消した。

北朝鮮指導部では2008年8月に金正日総書記が病気で倒れて以降、ずっと再編が進んでいたと言ってもよい。2010年4月には党組織指導部第1副部長として軍の人事を統括していた李容哲第1副部長が心臓麻痺で死亡した⁷。また2010年6月には同じく党組織指導部で党の人事を統括していた李済剛第1副部長が交通事故で亡くなった⁸。

金正恩時代へ向けた体制の整備は金正日総書記の健在な時期から徐々に進行していたと言える。

（2）金正日総書記死亡から永訣式まで

金正恩氏は、金正日総書記の死亡発表の翌日の12月20日、錦繡山記念宮殿を訪問。安置された金正日総書記の遺体に弔意を示した。これまでの北朝鮮メディアの金正恩氏に関する動静報道はすべて金正日総書記の活動への同行報道であったが、これが初めての単独行動の報道でもあった。

金正恩氏は12月28日の永訣式までに計5回、金正日総書記の霊前を訪問した。第1回目12月20日の序列は以下の通りである⁹。

①金正恩 党中央軍事委副委員長②金永南 最高人民会議常任委員長、党政治局常任委員③崔永林 首相、党政治局常任委員④李英鎬 軍総参謀長、党政治局常任委員⑤金慶喜 党軽工業部長、党政治局員、大将⑥金永春 人民武力相、党政治局員、党中央軍事委員、国防委副委員長、次帥⑦全秉浩 党政治局員、党内閣委責任書記、内閣政治局局長⑧金国泰 党政治局員、党中央委検閲委員長⑨金己男 党政治局員、党書記、党宣伝扇動部長、朝鮮社会科学者協会委員長⑩崔泰福 最高人民会議議長、党政治局員、党書記⑪楊亨燮 最高人民会議常任委員会副委員長、党政治局員⑫李勇武 国防委副委員長、党政治局員、次帥⑬呉克烈 国防委副委員長、大将⑭姜錫柱 副首相、党政治局員⑮辺英立 最高人民会議常任委書記長、党政治局員⑯張成沢 国防委副委員長、党行政部長、党政治局員候補、党中央軍事委員⑰金正角 軍総政治局第1副局長、党政治局員候補、党中央軍事委員、国防委員⑱金養建 党統一戦線部長、党政治局員候補、党書記、国防委参事⑲金永日 党国

際部長、党政治局員候補、党書記⑳朴道春 党政治局員候補、党書記、国防委員㉑崔龍海 党政治局員候補、党書記、党中央軍事委員、大将㉒金洛姫 副首相、党政治局員候補㉓太宗秀 党政治局員候補、党書記、党総務部長㉔金平海 党政治局員候補、党書記、党幹部部長㉕文景德 党政治局員候補、党書記、党平壤市責任書記㉖朱奎昌 党政治局員候補、党中央軍事委員、党機械工業部長、国防委員㉗禹東則 国家安全保衛部第1副部長、党政治局員候補、党中央軍事委員、国防委員、大将㉘金昌燮 党政治局員候補、国家安全保衛部政治局長、上将

金正恩氏の第1回の弔問に同行したこの27人の政治序列は2012年2月15日の金正日総書記の誕生70周年の中央報告大会までほぼ同じ序列が維持された。この序列で注目されたのは金正日総書記の実妹の金慶喜が政治局員のトップでランクされ、呉克烈氏が政治局員候補のトップでランクされたことだった。呉克烈氏は金正日総書記の国家葬儀委員会の名簿では29位にランクされていたが、序列13位に急上昇し、復権を印象づけた。

金正恩氏は12月24日に錦繡山記念宮殿に安置された金総書記の遺体への3回目の訪問をした。この訪問は党中央軍事委員会や国防委員会、朝鮮人民軍重要指揮官ら軍関係者を同行しての哀悼訪問だった¹⁰。この時、張成沢国防委副委員長が軍服で登場し、張成沢氏の軍服の肩には星が4つ付き、「大将」の階級であることが判明した¹¹。

北朝鮮では2010年9月の第3回党代表者会の前日に金慶喜、金正恩、崔龍海の3氏に大将の軍事称号が与えられているが、張成沢氏にも大将の軍事称号が与えられたとみられる。

2011年12月28日に金正日総書記の永訣式が行われ、金正日総書記の棺をのせた霊柩車を8人で護衛した。右側には金正恩党中央軍事委副委員長、張成沢国防委員会副委員長、金己男党書記、崔泰福党書記という朝鮮労働党幹部が、左側には李英鎬軍総参謀長、金永春人民武力部長、金正党軍総政治局第1副局長、禹東則国家安全保衛部第1副部長という軍幹部が並んだ¹²。この時点では、金正恩氏とともに霊柩車を囲んだ7人が金正恩体制を支える核心的な幹部とみられた。しかし、後に、軍側の4人は失脚したり、軍の一線から退いたりするというドラマティックな軍の再編が行われることになるとは、誰も予想できなかった。

(3) 最高司令官就任

朝鮮労働党政治局会議は2011年12月30日、金正日総書記の10月8日の遺訓に従い、金正恩氏を最高司令官に「高く奉じた」¹³。金正恩氏は金正日総書記死亡後、最高司令官

にまず就任したことは先軍路線を継承する証とみられた。

北朝鮮憲法では 最高司令官は憲法上、国防委員長の兼務職であるが、こうしたことを無視して最高司令官に就任した。

(4) 新年共同社説

2012年元日には金正日時代と同じように「労働新聞」など3紙の新年共同社説が発表された¹⁴。金正恩氏の「新年の辞」はなかった。新年共同社説では「敬愛する金正恩同志はすなわち偉大な金正日同志である」と強調された。共同社説の題名にも登場したように金正日総書記を前面に押し立てた「遺訓」という言葉が10回登場した。これは金日成主席が死亡した翌年の95年の4回を大きく上回る。

金正恩氏は元旦にまず党、国家、軍の幹部を同行し錦繡山記念宮殿を訪れ金日成主席と金正日総書記に対し「崇高な敬意」を示した¹⁵。そして朝鮮人民軍近衛ソウル柳京守第105戦車師団を訪問し¹⁶、最初の現地指導を軍部隊訪問で始めた。

朝鮮労働党政治局は1月12日▽錦繡山記念宮殿に金正日総書記の遺体を永久保存する▽金正日総書記の銅像を建立する▽2月16日を「光明星節」と定める—ことなどを決定した¹⁷。

最高人民会議常任委員会は2月3日付政令で「金正日勲章」「金正日賞」「金正日青年栄誉賞」「金正日少年栄誉賞」の制定を発表した¹⁸。

朝鮮宇宙空間技術委員会は3月16日に、地球観測衛星「光明星3号」を運搬ロケット「銀河3号」で平安北道鉄山郡の西海衛星発射場から4月12日から16日の間に打ち上げると発表した¹⁹。

第4回党代表者会開催前日の4月10日に行われた崔賢元人民武力部長死去30周年の中央追慕大会で、追悼の辞を述べた金正角軍総政治局第1副局長の肩書きを「党中央委員会政治局員候補であり人民武力部長である朝鮮人民軍次帥」と報じ、金永春人民武力部長が解任され、金正角第1副局長が人民武力部長に就任していることが判明した。

また、朝鮮中央通信は4月10日、党中央軍事委員会と国防委員会が7日付決定で崔龍海大将と玄哲海大将に「次帥」の軍事称号を与えたと報じた。

2. 第4回党代表者会と最高人民会議第12期第5回会議

(1) 第4回党代表者会と最高人民会議第12期第5回会議

4月11日朝鮮労働党第4回代表者会と4月13日最高人民会議第12期第5回会議での新

たな人事は以下の通りである²⁰。

◎朝鮮労働党第4回代表者会で決まった新人事

役職	氏名	主な肩書
党第1書記	金正恩	党中央軍事委委員長、軍最高司令官、大将
党中央委政治局		
政治局常務委員	金正恩	
	崔龍海	軍総政治局長、次帥
政治局員	金正恩	
	金正角	人民武力部長、次帥
	張成沢	国防委副委員長、党中央委行政部長
	朴道春	党中央委書記、国防委委員、大将
	玄哲海	人民武力部第1副部長兼後方総局長、次帥
	金元弘	国家安全保衛部長、大将
	李明秀	人民保安部長、大将
政治局員候補	郭範基	元副首相
	呉克烈	国防委副委員長、大将
	盧斗哲	副首相兼国家計画委員長
	李炳三	朝鮮人民内務軍政治局長兼党委責任書記、上将
	超延俊	党中央委組織指導部第1副部長
党中央委書記局		
書記	金慶喜	党政治局員、大将
	郭範基	副首相
党中央軍事委		
委員長	金正恩	
副委員長	崔龍海	軍総政治局長
委員	玄哲海	人民武力部第1副部長兼後方総局長
	李明秀	人民保安部長
	金洛兼	(07年当時、少将)
党中央委		
部長	金永春	党政治局員、国防委副委員長、次帥
	郭範基	副首相

	朴奉珠	元首相
--	-----	-----

4月13日に開催された最高人民会議第12期第5回会議で決定した人事は以下の通り²¹。

◎国防委員会の顔ぶれ

役職	氏名	年齢	その他の主な役職
委員長	金正日		党総書記、大元帥
第1委員長	金正恩		党第1書記、中央軍事委委員長、軍最高司令官、大将
副委員長	金永春	76	党政治局員、部長
	李勇武	87	党政治局員、次帥
	張成沢	66	党政治局員、行政部長、中央軍事委委員（大将？）
	吳克烈	81	党政治局員候補、大将
委員（再選）	朴道春	68	党政治局員、書記、大将
	金正角	71	党政治局員、人民武力部長、次帥
	朱奎昌	84	党中央委政治局員候補、中央軍事委委員、機械工業部長、上将
	白世鳳		第2経済委委員長（韓国情報）、上将
（新任）	崔龍海	62	党政治局常務委員、中央軍事委副委員長、軍総政治局長、次帥
	金元弘	67	党政治局員、国家安全保衛部長、大将
	李明秀	78	党政治局員、人民保安部長、大将
（解任）	禹東則	70	党政治局員候補、中央軍事委委員、国家安全保衛部第1副部長 (2012年3月25日以降動静報道なし)
	朱霜成	79	党政治局員（解任か）、前人民保安部長 (2011年3月16日に人民保安部長解任、以降動静報道なし)

朝鮮中央放送と平壤放送は4月10日に、前日の9日に開催された金正日総書記の国防委員長推戴19周年を記念する中央報告大会で大会出席者の名前を報じる中で、崔龍海政治局員候補を李英鎬総参謀長より前の3番目で報じた。金正角政治局員候補も李英鎬総参謀長の次に報じ、金元弘党中央委員（軍総政治局副局長）を党政治局員候補の金昌燮国家安全保衛部政治局長より前に報じた。これで崔龍海、金正角、金元弘各氏の序列が大幅に上昇していることを示唆した。

第4回党代表者会と最高人民会議で、故金正日総書記は「永遠の党総書記」「永遠の国防委員長」となった。金正恩氏は党では党第1書記、党中央軍事委員長、国防委では第1国防委員長に就任し、父、金正日総書記が保持していた職責をほぼ継承した。

党人である崔龍海氏が軍の査察権を握る軍総政治局長に就任、序列4位になった。李英鎬総参謀長は序列で崔龍海の後に位置づけられ、国防委員会入りできず、一連の人事は李英鎬包囲網の感じを与えた。

崔龍海氏と張成沢氏の上下関係は微妙で、元々、崔龍海氏は青年組織の責任者で、張成沢氏は党組織指導部で青年組織を担当し、崔龍海氏は張成沢氏系の人物とされた。しかし、今回の人事で崔龍海氏は党政治局常務委員、党中央軍事委副委員長、国防委員となった。党中央委と党中央軍事委では崔龍海氏が張成沢氏より上位で、国防委員会では副委員長の張成沢氏が委員の崔龍海氏より上位というねじれた関係になった。

崔龍海氏の軍総政治局長就任は金慶喜氏と張成沢氏の意向を受けた軍の統制という指摘もある。党人の崔龍海氏が軍の統制に失敗すればスケープゴートになるという見方も出た。

金慶喜氏は金日成主席の娘であり、金正日総書記の妹という「白頭山の血統」を代表する人物で、党では組織担当書記となり労働党の人事を掌握した。

旧軍部の金英春、呉克烈、李勇武の全体的な地位は低下しつつ、それなりに待遇した。人民武力部長を解任された金英春氏は党軍事部長に就任したとみられる。金正日総書記の現地指導に同行が多かった李明秀、玄哲海、朴在京の随行三人組も復活し、李明秀氏は人民保安部長、政治局員、国防委員となり、玄哲海氏は政治局員、人民武力部第1副部長兼後方総局長、次帥に、朴在京氏は人民軍総政治局副局長とそれぞれ要職に就いた。

国防委員から解任された禹東則国家安全保衛部第1副部長は脳溢血で健康が悪化したものとみられ、政治的失脚ではないもようだ。金元弘新国家保衛部長も党政治局員、国防委員に就任した。

党の核心部署である党組織指導部ではこれまで一切公式報道などのなかった趙延俊氏が第1副部長に就任していることが判明し、政治局員候補にも選出された。党組織指導部では金京玉第1副部長が軍を担当し、黄炳瑞副部長がこれを補佐しているとみられている。

同部で党を担当し実権を掌握してきた李濟剛第1副部長は2010年6月に極めて不審な交通事故死を遂げた。同年9月の第3回党代表者会で朴正順氏が政治局員候補に選出され、党を担当する第1副部長に就任したとみられていたが、朴第1副部長は11年1月に肺がんで死亡した。今回、党組織指導部第1副部長であると確認された趙延俊氏が政治局員候補

に選出されたことから、党担当の第1副部長である可能性が高くなった。

趙延俊第1副部長は1937年9月生まれの74歳。金日成総合大学を卒業し政治経済学の学位を取得、金日成総合大学の上級教員、党中央委指導員、咸鏡南道組織書記、党中央委副部長を経て今年1月から組織指導部第1副部長に就任している。

2002年以降の経済管理改善措置を主導した朴奉珠氏は党部長になり、党軽工業部長とみられている。

内閣の人事では李承鎬、李哲万、金仁植の3氏が新たに副首相に任命された。金仁植副首相は首都建設委員長を兼任した。

経済は崔永林首相をトップに郭範基・盧斗哲両首相、朴奉珠党軽工業部長のラインが基軸になるとみられる。

北朝鮮の公式ウェブサイト「ネナラ（わが国）」は5月30日になって改正憲法の全文のサイトで公開したが、金正日総書記の業績を称える条項の中で「先軍政治でわが祖国を不敗の政治強国、核保有国、無敵の軍事強国に変えた」と記し、北朝鮮が核保有国になったことを憲法に明記した。

(2) 「人工衛星」打ち上げ失敗と最初の肉声演説

北朝鮮の朝鮮宇宙空間技術委員会は3月16日、「人工衛星」（長距離弾道ミサイル）を4月12日から16日の間に打ち上げると発表した²²。朝鮮宇宙空間技術委員会当局者は4月10日に平壤の羊角島ホテルで衛星打ち上げに関して海外メディアなどに説明を行った。同11日には平壤の「衛星管制総合指揮所」も海外メディアに公開した。北朝鮮は4月13日午前7時39分ごろ、「光明星3号」を打ち上げたが、発射1、2分後に爆発し、衛星を軌道に乗せることに失敗した²³。

朝鮮中央テレビは同日午後零時11分からの臨時ニュースで「地球観測衛星の軌道進入は成功しなかった。科学者、技術者、専門家らが現在、失敗の原因を究明している」と報じ、衛星打ち上げの失敗を認めた。北朝鮮がこうした失敗を迅速に認めるのは珍しく、金正恩政権になっての姿勢の変化と注目された。

平壤の金日成広場では4月15日、故金日成主席の誕生100周年慶祝朝鮮人民軍陸海空軍将兵の閲兵式が行われ、金正恩氏が約20分間、初めての肉声演説を行った²⁴。

主席壇にいた崔龍海軍総政治局長や李英鎬総参謀長など軍幹部は朝鮮戦争時代に金日成主席が着たものと同じ白い軍服を着た。

金正恩氏のスタイルも金日成主席の演説姿を意識したものだったが、体をたびたび揺するなど、演説にややメリハリがなかった。金正恩氏は祖父、金日成主席のスタイルで、父金正日総書記の路線を語った。

演説は「強盛国家建設と人民生活向上を総合的目標として掲げているわが党と共和国政府にとって、平和はこれ以上になく貴重なものである。しかし、われわれにとっては、民族の尊厳と国の自主性がさらに貴重である」と強調した。

「民族の尊厳と国の自主性」を守るためには「平和」を犠牲にし得るという先軍路線を打ち出したと言える。

金正恩第1書記は「軍事技術的優勢はもはや帝国主義者たちの独占物ではなく、敵たちの原子爆弾でわれわれを威嚇脅迫した時代は永遠に過ぎ去った。今日の荘厳たる武力示威がこれを明確に確証するだろう」と強調し、軍事パレードでは大陸間弾道ミサイルを思わせるミサイルが登場し関心を引いた。

金正恩氏はその一方で「この世で一番よいわが人民、万難の試練を克服しながら党を忠実に支えてきたわが人民が二度とベルトを締め上げずに済むように（飢餓のような困苦欠乏に耐えなければならないことのないように）し、社会主義の栄耀栄華を思う存分享受するようにしようというのが、わが党の確固たる決心である」と強調した。金正恩第1書記は金正日総書記の掲げた「先軍路線」と「人民生活の向上」を同時に追求していく姿勢の表明であった。

3. 金正恩氏の文化小革命

(1) ファーストレディ

2012年7月初めは金正恩氏が後継政権をスタートさせて以降、最も金正恩氏の個人的なキャラクターが現れた時期であった。

金正恩氏は7月6日に牡丹峰楽団の公演を鑑賞したが²⁵、隣の席に若い女性が座り、彼女が何者なのか憶測を呼んだ。金正恩氏は故金日成主席の命日の7月8日に錦繡山太陽宮殿を訪問したが、この時も横にこの女性が同行した²⁶。この女性は金正恩氏が平壤市内にある慶上幼稚園視察（7月15日報道）にも同行した²⁷。そして、北朝鮮メディアは7月25日に金正恩氏が綾羅人民遊園地竣工式にこの女性と一緒に出席した際に、この女性を「李雪主夫人」と報じ、金正恩氏の夫人であることを明らかにした²⁸。

金正日総書記は現地指導などに夫人を同伴しても、それをメディアに公開することはな

かった。金日成主席も外国からの賓客を迎える時以外では夫人の同伴をメディアに公開することは避けた。その意味で、「ファーストレディ」の公開は、北朝鮮の若き指導者の新しいスタイルと注目された。

(2) ロッキーとディズニー

さらに金正恩夫妻が鑑賞した7月6日の牡丹峰楽団の公演では、同楽団の女性演奏者が北朝鮮では珍しいミニスカートを着用し、米映画「ロッキー」のテーマソングやディズニーのアニメのキャラクターに似たぬいぐるみも登場、しかもこれがテレビで放映された。これらの新しい現象は若き新指導者、金正恩氏の上からの「文化小革命」とも言えるもので内外から大きな関心を集めた。

(3) 6・28 方針

また、北朝鮮は6月28日に「われわれ式の新たな経済管理体系を確立することについて」という新たな経済管理改善措置を内部決定したという。これを党の地方組織などに通達し、「6・28 方針」と呼ばれる新しい経済管理改善措置が実施されるのではとの見方が広がった²⁹。北朝鮮関係者を含め、こうした整理した文献は存在しないとの証言がある。だが、「6・28 方針」という整理された文献は存在しなくとも、この時期に中央から地方に新たな経済管理改善措置が伝えられたのは事実とみられる。この経済管理改善措置は基本的には2002年7月1日に実施された「7・1 措置」が目指した路線を復活するものとみられた。農業では分組の単位をこれまでの約20人から家族単位の小規模にして農民のインセンティブを刺激するとみられた。また、企業でも各企業の権限を拡大する方向とみられた。

4. 李英鎬総参謀長の解任

朝鮮労働党は7月15日、党中央委政治局会議を開催し、李英鎬軍総参謀長を「病気の関係」で党政治局常務委員、政治局員、党中央軍事委副委員長をはじめとするすべての職務から解任し、これを同16日に発表した³⁰。

さらに、党中央軍事委員会と国防委員会は同16日、玄永哲大将を次帥に昇格させ、これを17日に発表した³¹。

この上で、党中央委員会、党中央軍事委員会、国防委員会、最高人民委員会常任委員会の4機関は同17日、金正恩氏に共和国元帥の軍事称号を授与し、18日にこれを発表した³²。

同日夜、平壤の4・25文化会館で開かれた金正恩氏への元帥推戴を慶祝する人民軍将兵決議大会に玄永哲次帥が人民軍総参謀長の肩書きで出席し、李英鎬氏の後任として総参謀長に就任していることが確認された³³。

金正恩氏の最側近とみられてきた李英鎬氏が「すべての職務」から解任されたことは内外に大きな衝撃を与えた。

しかし、前述したように、李英鎬氏に対する牽制、包囲網は4月の第4回党代表者会決定の大きな流れであった。しかし、その牽制や包囲網がこのように短期間に、電撃的に行われたのはやはり驚きであった。

李英鎬総参謀長の解任理由については本稿執筆段階でもまだ明確にはなっていない。李英鎬総参謀長と張成沢国防委副委員長や崔龍海軍総政治局長らとの葛藤、あるいは軍部が握っていた地下資源に対する利権の内閣への移管に対する軍部の抵抗などの可能性が指摘された。

ただ、金正恩第1書記は10月29日に行われた金日成軍事総合大学での金日成・金正日銅像の除幕式で演説し「党と首領に忠実でない人は、いくら軍事家らしい気質があっても作戦と戦術に秀でていなくても必要ない。歴史的教訓は、党と首領に忠実でない軍人は自分の使命を果たせず、最後は革命の背信者に転がり落ちることを示している。大学は学生たちに軍事指揮官としての資質と能力を備えさせる前に、まず党と首領に対する忠誠の業績を立てさせなければならない」と述べた³⁴。これは李英鎬総参謀長解任を念頭に置いての発言ではないかとの見方が出た。

5. 義務教育12年制

北朝鮮は9月25日に最高人民会議第12期第6回会議を開催した。北朝鮮が最高人民会議を年に2回開催するのは最近では異例だった。この会議では北朝鮮が準備を進めている経済改革の関連法案が採択されるとの見方が多かったが、その中心議題は義務教育期間を現行の11年から12年に1年延長することであった³⁵。

北朝鮮は1972年から就学前1年と小学校4年、中学校6年の11年制義務教育を実施している。最高人民会議では「全般的12年制義務教育を実施することについて」と題された法律が採択された。今回、就学前1年はそのままで、小学校を5年にし、中学校の課程を「初級」「高級」で3年ずつに分割することを決めた。義務教育対象は5歳から17歳までで5年制小学校への切り替えは、準備段階を経て2014-2015学年度から実施される。

注目されたのは、数学、物理、化学、生物のような基礎科学分野やコンピューター、外国語などの教育強化が強調されたことだった。また、法律である「全般的 12 年制義務教育を実施することについて」で「各級人民保安、検察機関たちは教員、学生たちを（教育）課程内に反映された国家的動員外の他のものに無秩序に動員する現象をなくするための法的統制を強化する」という条項も含まれ、学生を生産現場などに動員することに歯止めを掛けた。北朝鮮が法律で「無秩序な動員」に規制をかけた意味は大きい。

6. 公安関係会議で体制引き締め

党機関紙「労働新聞」は 9 月 28 日付社説「全党、全国、全民が総動員して今年の戦闘を輝かしく終えよう」で「70 年代の時代精神」の発揮を訴えた³⁶。

内閣や最高人民会議の機関紙である「民主朝鮮」も 9 月 28 日付で「1970 年代の時代精神」という論説を掲載した。

金正恩党第 1 書記の体制がスタートしたことを受け、70 年代に党幹部が金正日氏への忠誠を固めて金正日時代をつくっていったように、金正恩氏への忠誠を訴え、当時の幹部を手本に金正恩時代をつくっていくように訴えるキャンペーンとみられる。

朝鮮中央通信は 10 月 6 日、金正恩第 1 書記が国家安全保衛部である「朝鮮人民軍第 10215 部隊」に完成した金正日総書記の単独の銅像を視察したと報じた³⁷。

金正恩第 1 書記は「敵に対する幻想を持ったり、譲歩をしてはならず、敵の思想文化浸透策動と心理謀略策動を粉砕するため、国家安全防衛事業の現代化、情報化の水準を高めて不純敵対分子を断固かつ無慈悲に粉砕すべきである」と強調した。最高指導者が公安機関である国家安全保衛部を訪問したことを公開的に報じることは異例だ。

先述したように金正恩氏は 10 月 29 日に、自らの母校である金日成軍事総合大学で行われた金日成・金正日銅像の除幕式に出席した。金正恩第 1 書記が「党と領袖に忠実であり得ない軍人は、革命の背信者へと転落する」と演説し、党と最高指導者に対する忠誠を軍人に要求した。

北朝鮮当局はこの後、司法や公安機関の全国規模の会議を開いた。11 月 23 日に平壤で全国分駐所長会議を開催³⁸。

金正恩氏は祝賀文で、故金日成主席、故金正日総書記の銅像などに対する警備の徹底や「不純敵対分子」の洗い出しなどを求めた。同 26 日には平壤で全国司法・検察活動家熱誠者大会が開催された³⁹。金正恩氏は同大会に寄せた書簡で、司法・検察関係者に対して「非

社会主義的現象」を厳しく取り締まるよう要求した。さらに、12月5日には平壤で全国法務活動家大会が開催された⁴⁰。

金正恩氏は7月ごろには夫人を公開し、自らが結成したという牡丹峰楽団の演奏や遊園地などへの視察、住民とのスキンシップなどを通じて「人民に親しまれる指導者」という演出を強めたが、12年9月末ごろから急速に体制の取り締まり強化を打ち出した。

7. 軍幹部の交代

韓国政府当局者は11月29日、北朝鮮の金正党人民武力部長（次帥）が更迭され、後任に金格植元総参謀長が就任している模様だと明らかにした⁴¹。そして12月21日には、金格植氏の人民武力部長就任が確認された⁴²。

昨年12月28日、金正日総書記の永訣式（葬儀）で霊柩車を囲んだ金正恩氏を除く7人の幹部は金正恩氏を支える核心幹部とみられた。霊柩車の右側には金正恩氏を先頭に、張成沢党政治局員候補（当時）、金己男党政治局員、崔泰福党政治局員という朝鮮労働党の幹部がいた。左側には李英鎬総参謀長（当時）、金永春人民武力部長（同）、金正党人民軍総政治局第1副局長（同）、禹東則国家安全保衛部第1副部長（同）という4人の軍幹部がいた。

しかし、李英鎬総参謀長は7月に「すべての職責」から解任された。金永春人民武力部長は今年4月の第4回党代表者会で党部長に転出し軍の一線から一步退いた。金正恩氏は4月の第4回党代表者会前に人民武力部長に就任したが、12年11月ごろ更迭されたとみられる。禹東則第1副部長は病気のために引退したとみられている。

金正恩後継体制を支えるとみられていた軍の核心幹部4人がすべて失脚、もしくは軍一線から姿を消した。その一方で、党の側の3人はそのまま健在で、金正恩後継体制が「先軍政治」の継承を掲げているが、軍よりは党中心の指導体制へ転換しつつあることを示した。

さらに、2012年10月には玄永哲総参謀長の階級が次帥から大将に降格されたとみられ⁴³、同年12月には崔龍海軍総政治局長も次帥から大将に降格されていることが判明した⁴⁴（崔龍海軍総政治局長は2013年2月5日に階級が次帥に戻っていることが判明⁴⁵）。

韓国での報道ではこのほか、崔富日総参謀部副総参謀長も大将から上将に、金英哲偵察総局長は大将から上将もしくは中將まで降格されたという⁴⁶。韓国メディアは北朝鮮軍部が平壤の首脳部だけでなく全国的に「金正恩時代」の軍部に再編されているとした。

8. 張成沢氏の台頭

張成沢国防委副委員長は2012年8月13日から18日まで中国を訪問した。張成沢副委員長は同17日には北京で胡錦濤国家主席、温家宝首相とそれぞれ会談した⁴⁷。中国側は首脳級が会談に応じることで張成沢氏を元首並みにもてなした。

労働党政治局拡大会議が11月4日に開かれ「国家体育指導委員会」の設置が決まり、委員長に張成沢氏が就任した⁴⁸。北朝鮮には体育省があるが、今回の「国家体育指導委員会」はもっと強力な権限を持った組織とみられる。北朝鮮のスポーツ人口は民間と並び軍関係にも多い。体育省は民間人を対象にし、この国家体育委員会は民間、軍を含んだ国家的なスポーツ機関とみられる。委員会の副委員長や委員には党、軍、内閣の幹部が多数任命された。

2012年4月の党代表者会、最高人民会議が終わった後の4月13日に平壤で行われた故金日成主席と故金正日総書記の銅像の建立式での政治序列は以下のようなものであった⁴⁹。

①金正恩、②金永南、③崔永林、④崔龍海、⑤李英鎬、⑥金慶喜、⑦金正角、⑧張成沢、⑨朴道春、⑩金永春、⑪金国泰、⑫金己男、⑬崔泰福、⑭楊亨燮、⑮姜錫柱、⑯李勇武、⑰玄哲海、⑱金元弘、⑲李明秀、⑳呉克烈、㉑金養建、㉒金永日、㉓太宗秀、㉔金平海、㉕文景德、㉖郭範基、㉗金昌燮、㉘盧斗哲、㉙李炳三、㉚趙延俊、㉛金永大、㉜柳美英

2010年9月の第3回党代表者会では党政治局員候補だった張成沢氏は2012年4月の第4回党代表者会で政治局員に選出され、この時点の序列は8位まで上昇した。

しかし、時間の経過とともに張成沢氏の政治的な重みは増し、2013年元日に金正日第1書記が錦繡山太陽宮殿を訪問した際の政治序列は以下のようなものだった⁵⁰。

①金正恩、②金永南、③崔永林、④崔龍海、⑤張成沢、⑥玄永哲、⑦金格植、⑧金己男、⑨崔泰福、⑩朴道春、⑪金永春、⑫楊亨燮、⑬姜錫柱、⑭玄哲海、⑮金元弘、⑯李明秀、⑰金養建、⑱金永日、⑲金平海、⑳郭範基、㉑文景德、㉒朱奎昌、㉓金昌燮、㉔盧斗哲、㉕李炳三、㉖趙然俊

張成沢氏は党政治局常務委員の金正恩、金永南、崔永林、崔龍海の4氏に続く序列5位で、軍部の玄哲海総参謀長、金格植人民武力部長より上位にランクされている。張成沢氏は党政治局員ながら、実質的には政治局常務委員と同じような権勢を確保していると言ってよい。

9. 人工衛星打ち上げ

北朝鮮の朝鮮宇宙空間技術委員会は12月1日に、地球観測衛星「光明星3号2号機」を12月10日から22日の間に打ち上げると発表した⁵¹。

12月17日は金正日総書記の死亡1年目に当たる。「光明星3号」打ち上げは金正日総書記の「遺訓」であった。北朝鮮が今回打ち上げた「人工衛星」を「光明星4号」とせず、「光明星3号2号機」と命名したのは、4月に実現できなかった金正日総書記の遺訓達成を果たすためとみられる。

北朝鮮は12月12日午前9時49分46秒に、同国北西部にある平安北道鉄山郡東倉里の「西海衛星発射場」から「光明星3号2号機」を打ち上げ、9分27秒後である9時59分13秒に軌道に進入させた。「衛星」を軌道に乗せることには成功した⁵²が、その衛星が電波などを発信していることは確認されなかった。

韓国の金寛鎮国防相は、今回発射されたロケットの射程は1万キロメートル程度との見方を示した。ミサイルの弾頭部分の大気圏への再突入の際の誘導技術や高熱に耐える外壁素材の開発などの問題があるが、今回の打ち上げ成功は、北朝鮮が大陸間弾道ミサイル(ICBM)技術獲得に大きく近づいたことを意味する。

朝鮮中央通信は12日、「光明星3号2号機」の打ち上げ成功について「全国に金正日総書記への限りない懐かしさと敬慕の念が満ち溢れている時期に、われわれの科学者、技術者は金日成主席の生誕100周年にあたる2012年に科学技術衛星を打ち上げるという金正日総書記の遺訓を立派に貫徹した」とその意義を称えた⁵³。

北朝鮮は2012年に「強盛大国の大門を開く」としてきた。しかし、「人民生活の向上」などで目に見える改善はなく、「強盛大国」のスローガンは「強盛国家」や「強盛復興」といったスローガンに変わりつつある。

金正恩第1書記が12月の「光明星」発射にこだわったのは人工衛星打ち上げが金正日総書記の「遺訓」であり、「強盛大国の大門を開く」の象徴として人工衛星打ち上げ成功を住民に誇示するためでもあった。

10. 19年ぶりの新年の辞

金正恩第1書記は、2013年元日に「新年の辞」を発表した。北朝鮮の最高指導者が元日に「新年の辞」を発表するのは祖父の金日成主席が1994年元日に行って以来19年ぶりだった。

「新年の辞」のポイントは「経済強国建設」と「南北関係改善」にあった。

「新年の辞」は、2013年を「金日成・金正日朝鮮の新たな100年代の進軍路で社会主義強盛国家建設の画期的な局面を開く壮大な創造と変革の年」と規定した。

「新年の辞」は「経済建設の成果は人民の生活に現れなければなりません」とし「今年のすべての経済活動は、これまで築かれた自立的民族経済の土台をさらに強固にし、十分に活用して生産を大いに増やし、人民生活の安定と向上のためのたたかいとならなければならない」と訴えた。さらに「農業と軽工業は依然として今年、経済建設の主要攻略部門です」と指摘したが、農業や軽工業で成果を出すための具体的な課題や方法については言及がなかった。

もう一つの重点は南北関係の改善だった。「今年、全民族が団結し、民族あげての統一愛国闘争によって祖国統一の新たな局面を開かなければなりません」と強調し、「国の分裂に終止符を打ち、統一を実現するうえで提起される重要な問題は、北と南の対決状態を解消することです」と南北の対決解消を訴えた。さらに、2000年に金正日総書記と金大中大統領が署名した「6・15南北共同宣言」と、07年に金正日総書記と盧武鉉大統領が署名した「10・4宣言」の履行を求めた。

11.3 回目核実験

国連安全保障理事会は2013年1月22日、北朝鮮が昨年12月に行った「人工衛星」発射は「長距離弾道ミサイル技術を用いた」もので安保理決議に違反しているとして制裁強化決議第2087号を採択した。

これに対して北朝鮮は同23日、直ちに外務省声明を出して⁵⁴、安保理決議を非難し「核抑止力を含む自衛的な軍事力を質的に拡大、強化する任意の物理的対応措置を取ることになる」と核実験を行うことを示唆した。「各種の実用衛星と、より威力ある運搬ロケットをもっと多く開発し、打ち上げるであろう」と人工衛星や運搬ロケット（長距離弾道ミサイル）の発射も続けるとした。

さらに同23日には国防委員会声明を発表し⁵⁵「われわれが引き続き打ち上げることになる各種の衛星と長距離ロケットも、われわれが行うことになる高い水準の核実験も朝鮮人民の不倶戴天の敵である米国を狙うことになるということを隠さない」と具体的に核実験を行うと声明した。

国際社会は北朝鮮に核実験の中止を要求したが、北朝鮮は結局2月12日に咸鏡北道吉州

郡豊溪里の実験場で地下核実験を強行した。

朝鮮中央通信は12日午後2時40分ごろ「3回目の地下核実験成功」を報じた⁵⁶。同通信は「爆発力が大きいながらも、小型化、軽量化された原子爆弾」の実験に成功したとし、今回の核実験が「小型化、軽量化」された核兵器の実験であることを明らかにした。

さらに同通信は、その記事で「多種化されたわれわれの核抑止力の優れた性能が物理的に誇示された」と報じた。この「多種化」という言葉は、今回の実験の材料が濃縮ウランだった可能性を指摘する見方も出たが、本稿執筆時点では今回の実験がプルトニウム系なのかウラン系なのか明らかになっていない。

12. まとめ

金正恩時代が始まり、当初は金正日総書記の遺訓を継承する路線が続くとみられた。しかし、1年数ヶ月が経過してみると、金正日総書記の路線を継承している面と、金正恩時代になって変化した面の両面があるのは事実である。最高指導者が交代したのであるから、「変化」の側面が出ることは不思議ではない。

金正恩氏は4月の第4回党代表者会、最高人民会議第12期第5回会議までに父、金正日総書記が保有していた最高司令官、党総書記、党中央軍事委員長、国防委員長の職責を継承した。金正日氏を「永遠の総書記」「永遠の国防委員長」に奉じたために、父親とまったく同じ名前の職責にはならなかったが「第1書記」「第1委員長」という職責で事実上同じ権限を確保した。

金正日総書記は金日成主席の死後、3年間服喪して職責を継承したが、金正恩氏は4月までにほぼすべての職責を継承した。これは金正日氏が既に金日成時代に実質的な権力者であったために権力継承を急がなくてもよかったのに対し、金正恩氏は世襲で、若く、実績もなかったために権力の安定のためにも権力継承を急がなければならなかったとみられる。

金正恩時代と金正日時代の最も大きな変化は「党」と「軍」の関係の変化である。金正日時代は「先軍路線」により、軍の影響力が大きくなった。労働党は1980年以来党大会を開催せず、党中央委員会総会も開かれなかった。党中央委員のかなりの数が死亡するなどしたが補充人事も行われず放置された。しかし、2010年9月の第3回党代表者会で党組織が再建された。これは金正恩時代への準備と言ってもよかった。

金正日総書記の葬儀では霊柩車を、金正恩氏を除き、党から3人、軍から4人が囲んだ。

1年余を経て、党側の3人は健在だが、軍側の4人は軍の一線から姿を消した。特に金正恩氏の後見人とみなされ、軍の実質的なトップであった李英鎬総参謀長が12年7月に解任されたことで、党の軍への優位性が顕著になった。総参謀長や軍総政治局長などの軍事階級が降格されたり、軍幹部の回転ドア式の異動が行われた。

また党の核心メンバーである崔龍海党政治局常務委員、張成沢党政治局員、金慶喜党政治局員らが軍服を着て軍の統制に当たるといった現象が起きている。

世界の社会主義国で軍人が軍服を脱いで背広を着て党の幹部になる例は多いかもしれないが、党幹部が背広を脱いで軍服を着て軍を統制するという例はあまりなく、北朝鮮は極めて珍しい実験を行っている。

抗日パルチザン出身の金日成主席の盟友であり、初代人民武力部長を務めた崔賢氏の息子である崔龍海氏が4月の第4回党代表者会で軍総政治局長として軍に送り込まれ、軍の査察などを担当した。また、金正恩氏は軍が保有していた地下資源の利権なども内閣に移管しつつあるとされる。

金正恩時代の権力の中心は党に比重が移り、北朝鮮は次第に通常の世界社会主義国家と同じ「党国家体制」に戻りつつあると言える。

しかし、それをもって、北朝鮮が「先軍」路線から脱皮しつつあるとは言えない。

金正恩氏は夫人を公開し、牡丹峰楽団を創設し西側の音楽を演奏して放映したり、人民とスキンシップを繰り返して開放的なイメージをつくらうとした。

しかし、金正恩氏の2012年秋以降の動きは急速に体制擁護の色彩を強め、司法・公安機関の全国大会を相次いで開催し、体制の取り締まりを強化した。

そして、国際社会がミサイルとする人工衛星を打ち上げ、ついには3回目の核実験まで強行し、「先軍路線」を掲げて国際社会との瀬戸際作戦を続けている。

北朝鮮内部に穏健派の「党」勢力と、強硬派の「軍」勢力の対立があり、2012年10月ごろ以降の動きは、金正恩第1書記が「軍」の強硬路線を支持して、強硬路線を取っているという見方もある。

一方、その背景は不明だが軍総政治局長、軍総参謀長、軍総参謀部副総参謀長、偵察総局長らの階級が降格される事態が生じ、軍幹部の頻繁な異動が行われていることを見れば、金正恩時代における「軍」の地位は金正日時代に比べて相対的に低下しているとみられる。

利権の喪失や軍部の地位低下などにより、「軍」内部に不満が蓄積されているのは事実であろう。金正恩後継政権は「軍」内部の不満を解消するためにも強硬路線を取っていると

も言える。しかし、「党」優位の状況でも軍事優先路線が続いていることは注目すべきであろう。つまり、現在、北朝鮮の権力の核心が軍から党に移行しても、党による「先軍路線」には変化がないという状況が生まれている。

その一方で、金正恩氏は自らが最初に行った肉声演説である2012年4月の金日成主席誕生100周年の閲兵式での演説で、人民を二度と空腹にさせないとの意味で「ベルトを締め上げることをしないようにする」と訴えた。金正恩氏にとって「人民生活の向上」こそが祖父も、父もなしえなかった課題であり、自らの課題であることを自認した演説内容であった。

金正恩氏は昨年夏に「6・28方針」と言われる経済管理改善措置の準備に着手したが、それはいまだに実行されていない。金正恩氏が経済改革を実施することは当面、困難になったとみられる。

金正恩氏が核実験実施を指すとみられる「国家的重大措置」の決心を表明した外交安保関係幹部との協議会（1月26日報道）では「今や、人民がこれ以上困苦欠乏に耐えることがないように経済建設に集中しようとしていたわれわれの努力には重大な難関が生じた」と述べた。これからは経済優先政策を推進しようとしていたのに、米国などの敵視政策により先軍路線を続けざるを得なくなり、経済優先政策が取れなくなったとの主張だ。

その意味では、父の金正日総書記も「先軍」と「人民生活の向上」という相対立する二兎を追ったが、金正恩氏もまた同じとも言える。経済再建という課題を背負った金正恩氏だが、現時点では、成果を生み出せずにいる。

北朝鮮は3回目の核実験を行った後も、人工衛星、長距離弾道ミサイル、核実験などを継続する姿勢を示している。朝鮮半島の緊張は長期化する可能性が高い。そうした対外的な要因が今後も、内政に影響を与える可能性もある。

金正恩後継政権が2012年末から取っている事実上のミサイル発射である人工衛星発射や3回目の核実験という強硬路線が、金正恩後継政権が金正日時代と変わらない「先軍路線」を今後とも継続することを意味するのか、本来の「党国家体制」へ向かうための一時的な強硬路線なのかは、今しばらく推移を見守る必要がある。

— 注 —

- 1 朝鮮中央通信 2011年1月19日「전체 당원들과 인민군장병들과 인민들에게 고향」
- 2 同「김정일동지의 질병과 서거원인에 대한 의학적결론서」
- 3 同「국가장의위원회 구성」
- 4 朝鮮中央通信 2011年3月16日「주상성 인민보안부장 해임」
- 5 同6月6日「조선로동당 중앙위원회 정치국 확대회의」
- 6 共同通信 2012年3月21日「코리아노트 (6) 『미스터Xは昨年1月死亡』」
- 7 朝鮮中央通信 2010年4月26日「김정일총비서 고 리용철 당제1부부장의 령전에 화환」
- 8 同2010年6月3日「김정일총비서 고 리제강 당제1부부장 령전에 화환」
- 9 朝鮮中央通信 2011年12月20日「김정일동지의 령전에 조의를 표시하는 의식
거행-김정은동지 애도 표시」
- 10 朝鮮中央通信 2011年12月24日「김정은동지께서 김정일총비서 령구에 심심한 애도
표시」
- 11 朝鮮中央テレビ 2011年12月25日放映
- 12 朝鮮中央通信 2011年12月28日「김정일총비서와 영결하는 의식 엄숙히
거행」および朝鮮中央テレビ同日放映
- 13 朝鮮中央通信 2011年12月31日「김정은동지를 조선인민군 최고사령관으로 높이
모시었다」
- 14 朝鮮中央通信 2011年1月1日「《위대한 김정일동지의 유훈을 받들어 2012년을
강성부흥의 전성기가 펼쳐지는 자랑스러운 승리의 해로 빛내이자》-공동사설」
- 15 同「김정은동지께서 금수산기념궁전을 찾으시고 경의 표시」
- 16 同「김정은동지께서 조선인민군 근위 서울류경수 제105땅크사단을 방문」
- 17 朝鮮中央通信 2012年1月12日「조선로동당 정치국 특별보도」
- 18 同2月4日「김정일훈장을 제정함에 대한 정령」
- 19 同3月16日「조선우주공간기술위 4월에 《광명성-3》호 발사」
- 20 同4月12日「김정은동지를 조선로동당 제1비서로 높이 추대」 「조선로동당 제4차
대표자회」
- 21 朝鮮中央通信 2012年4月13日「김정일총비서를 영원한 국방위원회 위원장으로
「김정은동지를 국방위원회 제1위원장으로 추대」 「최고인민회의 제12기 제5차회의」
- 22 朝鮮中央通信 2012年3月16日「조선우주공간기술위 4월에 《광명성-3》호 발사」
- 23 同4月13日「지구관측위성 《광명성-3》호 궤도진입 성공하지 못하였다」
- 24 同4月15日「김정은동지 김일성주석 탄생 100돛경축 열병식에서 연설」
- 25 朝鮮中央通信 2012年7月7日「김정은동지께서 새로 조직된 모란봉악단의 시범공연
관람」
- 26 同7月8日「김정은동지께서 조선인민군 지휘성원들과 함께 금수산태양궁전을
찾으시었다」
- 27 朝鮮中央通信 2012年7月15日「김정은동지 경상유치원을 방문」
- 28 同7月25日「김정은원수님 모시고 룡라인민유원지 준공식 성대히 진행」
- 29 東亞日報 2012年6月26日付「김정은 특별지시 농지私有 협동농장 개혁 나선다」 데이
リーNK同7月10日「김정은 첫 경제개혁..."先국가투자 後분배」
- 30 朝鮮中央通信 2012年7月16日「리영호동지를 모든 직무에서 해임-당 정치국회의」
- 31 朝鮮中央通信 2012年7月17日「현영철동지에게 차수칭호 수여」
- 32 同7月18日「김정은동지에게 원수칭호 수여」
- 33 同「조선인민군 장병들의 결의대회」
- 34 朝鮮中央テレビ同10月30日放映
- 35 朝鮮中央通信 2012年9月25日「최고인민회의 제12기 제6차회의 진행」 「최고인민회의의
전반적 12년제의무교육을 실시함에 대한 법령 발표」
- 36 労働新聞 2012年9月28日社説「전당,전국,전민이 총동원되어 올해전투를 빛나게 결속하자」
- 37 朝鮮中央通信 2012年10月6日「김정은동지 국가안전보위부에 높이 모신」

- 김정일대원수님의 동상을 돌아보시였다」
- ³⁸ 朝鮮中央通信 2012年 11月 23日 「김정은원수님 전국분주소장회의 참가자들에게 축하문」
- ³⁹ 朝鮮中央通信 同 11月 26日 「김정은원수님 전국사법검찰일군열성자대회 참가자들에게 서한」
- ⁴⁰ 同 12月 5日 「전국법무일군대회」
- ⁴¹ 聯合ニュース 2012年 11月 29日 「北인민무력부장 교체... 김정은 군대'로 재편 마무리」
- ⁴² 朝鮮中央テレビは、2012年 12月 21日、咸興市に新たにつくられた金日成・金正日銅像の除幕式に参加した金格植氏を「人民武力部長」と紹介。
- ⁴³ 労働新聞 同 10月 10日付の金正恩第1書記の錦繡山太陽宮殿訪問の写真にある玄永哲総参謀長の階級章が大将に。
- ⁴⁴ 12月 16日に平壤で開催された金正日総書記死亡1年の中央報告大会で金己男党書記が崔龍海氏の階級を大将と紹介。
- ⁴⁵ 朝鮮中央テレビが 2013年 2月 5日に報じた金日成主席の「一当百」のスローガン提唱50周年の人民武力部報告会の映像で次帥復帰が確認される。
- ⁴⁶ 聯合ニュース 2012年 11月 20日 「北 전방위 충성도 검증.. 최부일도 강등」
- ⁴⁷ 朝鮮中央通信 2012年 8月 17日 「중국주석이 조중공동지도위원회대표단 접견」 「중국총리가 조중공동지도위대표단을 만났다」
- ⁴⁸ 同 11月 4日 「조선로동당 중앙위원회 정치국 확대회의」
- ⁴⁹ 労働新聞 4月 14日付 「<태양조선의 끝없는 긍지와 영광 천추만대에 길이 빛나리> 위대한 김일성동지와 김정일동지의 동상 만수대언덕에 건립」
- ⁵⁰ 朝鮮中央通信 2013年 1月 1日 「김정은원수님께서 새해에 즈음하여 금수산태양궁전을 찾으시였다」
- ⁵¹ 朝鮮中央通信 2011年 12月 1日 「조선우주공간기술위 12월 10일부터 22일사이에 인공지구위성 발사하게 된다」
- ⁵² 同 12月 12日 「《광명성-3》호 2호기 위성 발사성공」
- ⁵³ 同 「조선중앙통신사 보도 《광명성-3》호 2호기를 성과적으로 발사」
- ⁵⁴ 朝鮮中央通信 2013年 1月 23日 「조선외무성 유엔안전보장리사회 《결의》 비난」
- ⁵⁵ 同 24日 「조선국방위 나라의 자주권을 수호하기 위한 전면대결전에 나설것」
- ⁵⁶ 同 2月 12日 「조선중앙통신사 보도 제3차 지하핵시험을 성공적으로 진행」